

地域の人びとを守るため、もてる力を尽くしたい

徳島県危機管理庁
南海地震対策課

大西栄一

さん 創価大学法学部卒業

「学生のための大学」「社会貢献する大学」を掲げ、人間教育に力を入れている創価大学は、人びとの役に立つ仕事をしたいと考える学生が多いのが特長。これまでのべ約1500名が国家・地方公務員試験に合格し、全国で人びとの暮らしを守るために活躍しています。

「今は、ちよつとした『徳島ブーム』だと思います」

徳島県に生まれ育ち、東京暮らしを経て故郷に戻り、県庁職員になった大西栄一さんはこう言う。

徳島県といえば阿波踊りやうず潮などで有名だが、今年はまだまさし原作、松嶋菜々子・宮本信子主演で徳島市が舞台となった映画『眉山』が公開され、昨年は鳴門市の板東俘虜収容所を舞台にドイツ人俘虜と地元住民との交流を描いた映画『パルトの楽園』が話題となった。鳴門ダイワイワカメ、鳴門金時、すだちなど、名産品も多い。

そんな徳島県で目下、懸念されているのは、三〇年以内に五〇%の確率で起こるとされている南海地震だ。どうしたら住民の命や財産を守ることができるか。徳島県では、県内各地の地域団体や企業で、「寄り合い防災講座」と銘打った啓発事業を積極的にやっている。大西さんは、県の職員になって八九年目、選ばれて大手損害保険会社に出向し「顧客第一」の姿勢を



徳島県庁舎をバックに。庁舎後ろが『眉山』

学んだ。その間起きた中越地震、スマトラ沖地震では、被災地に直接足を運んだ。十数メートルに及ぶ津波に街が一瞬にしてさらわれたスリランカで、「家族も家も何もかも失った」と泣きながら訴える現地の人姿が忘れられない。

大西さんが公務員になろうと決心したのは、大学四年生の春創立者の招きで大学を訪れたロイザ・パークス女史の講演を聞いたことがきっかけだった。パークス女史は、アメリカの人種差別撤廃運動の象徴的な存在と

して知られている。「弱い立場の人びとを守るために、一生を捧げた人がいることに感動しました。そして、自分の行くべき道はこれだと思ったんです。公務員になって、人びとが平等に生きられる社会をつくるために働こうと」

自分の将来を決めかねていた大西さんの転機だった。「絶対に公務員になると決めてがんばりました。それは、自分一人の力だけでなく、毎日のように下宿にやって来ては励ましてくれた先輩がいたからできたことだ。今は北海道で教員をしていますが、その先輩には感謝してもしつこくせません」先輩や友人から、「人に尽くす」とはどういうことか、身をもって学んだという。

「仕事はハードですが、地震や津波の怖さについて話をすると、みなさんから『よくわかった』と言ってもらえるので、やりがいがあります」

大西さんが担当する「寄り合い防災講座」では、自分が現地で撮った写真や見聞きしたことなどを交えて話をしている。徳島県で最大約四三〇〇人の死者が出る予想される南海地震。被害をくいとめるには、地震や津波についてよく知り、地域の絆を強めることが大切と、大西さんは言う。

「死者ゼロ」が目標です。講座の申し込みがあれば、土日、昼夜を問わず、県内どこへでも行きます。住民に尽くすのが公務員の使命ですから」

人びとのために——大学時代に培われた思いが、大西さんを支えている。

Soka Report | 創立者の軌跡 | 平和・文化・教育の世紀へ 11



世界44カ国・地域の101大学と交流する創価大学。その礎は、創立者である池田大作SGI（創価学会インタナショナル）会長によって築かれた。とりわけ中国については、1974年に周恩来総理と会談を行って以来、鄧小平氏、江沢民氏、胡錦濤氏（写真）、温家宝氏など、歴代リーダーと友誼を結び、日中友好

に多大な貢献してきた。また、北京大学や復旦大学など、中国の大学からは70を超える名誉学術称号を授与されている。2007年11月19日には、新しく赴任した崔天凱駐日大使と会談。大使は「池田先生は、早くも1960年代に中日国交正常化を提言、先生の遠見、学識、知恵、勇気に敬服します」と語った。

学生のための大学
創価大学
創価女子短期大学

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel.042-691-2215 http://www.soka.ac.jp/



おおいし・えいいち
一九七二年徳島県生まれ。一九八八年徳島市立城西中学校卒業。一九九一年創価高校卒業。一九九五年創価大学法学部卒業。その後、二年間徳島県の臨時職員を経て一九九七年徳島県庁入庁。入庁八日目に職員の間長期派遣研修制度で民間（大手損害保険会社）へ二年間派遣、地震を中心とした災害対策について学ぶ。派遣中、新潟県中越地震やスマトラ沖地震の被災地を視察。研修後の現在、南海地震対策課にて勤務。